



2021年 10月

第316号

The Service Club of The YMCA

東京八王子ワイズメンズクラブ

会長	山本 英次
副会長	茂木 稔
書記	花輪 宗命
会計	小口 多津子
直前会長	花輪 宗命
担当主事	中里 敦
プリテン	茂木 稔 山本 英次 大久保 重子

国際会長 キム・サンチェ(韓国) 主題「世界とともにワイズメン」
 スローガン「愛と尊敬で世界を癒そう」
 アジア太平洋地域会長 大野 勉(神戸ポート) 主題:「100年を越えて変革しよう」
 スローガン:「健康第一」
 東日本区理事 大久保 知宏(宇都宮) 主題:「私たちは次の世代のために何が出来るか」 スローガン「絆を深める時」
 あずさ部部长 長谷川 あや子(八王子)
 主題:「道を拓く〜愛と協力によって」
 クラブ会長 山本英次 主題:「コロナ禍を乗り越えて、新時代のクラブへ」

9月卓話「コロナ禍にある西東京YMCAの今」を聴いて

小口多津子

秋の涼しい一日、YMCA 西東京センター長の出沼一弥さんをお迎えして卓話をお聞きました。コロナ禍がこんなにも長くなるとは、ここ2年は国立の西東京センターに足を運んでいないこととなります。職員の方もボランティアリーダーさんにもしばらくお会いしていないので、お話の一つ一つに想像をかきたてられました。映像を見て国立駅周辺の変わりようにはびっくりしました。お話は出沼さんのYMCAとの関わりから始まりました。最初はYMCA山手センター時代に「リビー」スタートに関わってこられたこと、名前の発案にLet it beからとって付けられたこと。その後、西東京センターへは2016年に入職されたとのことで、お聞きして思い出しました、その頃

10月第一例会プログラム

(担当A班 長谷川、菅野、中里、小口)

日時: 10月9日(土) 18:00~20:00

会場: 八王子市北野事務所2F

受付: 菅野 司会: 小口

開会点鐘	山本会長
ワイズソング(伴奏並木)	一同
ワイズの信条	一同
聖句・食前の感謝	小口
会食	
クラブ話し合い	
・近づく部大会の準備	長谷川部長
・6月卓話のフードバンク八王子「えがお」	

のその後クラブとして出来ることは?

東京YMCA報告	中里
連絡事項	山本会長
スマイル(熱海・伊豆山地区土砂災害のために)	菅野
Happy Birthday	山本会長
閉会点鐘	山本会長

先月の例会ポイント(9月)

在籍	13名	切手(国内・海外)	0g
メン	13名	累計	0g
メイキャップ	0名	現金	0円
出席率	100%	累計	0円
メネット	1名	スマイル	9,850円
ゲスト	2名	累計	21,350円
円			
ビジター	0名	オークション	0円
ひつじぐも	0名	累計	0円

今月の聖句(2021年10月)

何よりもまず、互いに心から愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆うからです。不平を言わずにもてなし合いなさい。あなたがたは、それぞれ賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を用いて互いに仕えなさい。

(新約聖書・ペトロの手紙一4:8~10)

は、その数年前かにサポートチームという名前でワイズの有志で西東京応援隊が出来ていました。そしてその年にそこで出沼さんと初顔合わせがあって、自己紹介の出沼さんが、キャンプネームは、お菓子のアプロチョコからとった、「アポラーです、よろしく」と挨拶されました。まるで昨日のような思い出です。

今の西東京センターは、名称を、今年4月からPIT国立



と変わり、主に発達障害児を中心の放課後をサポートする学童クラブ事業

が主となっていること。働く親から預かるので行政との関わりもあること。その青空・シャベル、つばさ等のグループの定例活動が、このコロナ禍により、大幅に行事が縮小されてきていることが今の一番の痛手であること。ファミリークリスマス会、国立桜まつりに参加のバザー、そしてその年度活躍のボランティアリーダー感謝会、などワイズも変わる行事が軒並み中止となってしまう2年間でした。

現在のセンターで働くボランティアリーダーさんは約12名の学生や社会人で成り立っていて、月に1, 2回のミーティングを重ねて、プログラムの為、自己研鑽のためにこのコロナ禍の中で一生懸命であることも報告されました。

数ある各地のYMCAには、どこも「ボランティアリーダー」の存在が無くてはならないものとなって、その方がたの力で子供向け各プログラムが成り立っています。

丁度、同じこの9月11日には東日本区ワイズメンズクラブが主催の、「第33回ユースボランティアリーダーズフォーラム」(YVLF)が横浜YMCA主管で、2日間に亘って開催されていました。恒例のYMCA山中湖センターでは開催が出来ず、50人ほどの参加者全員がZOOM開催でしたが、私は、この日、クラブ例会に出る直前まで出席しました。

プログラムのメインは、11日、12日ともに基調講演、各YMCAのリーダー活動紹介、各都市YMCA紹介。基調講演のあとの、グループディスカッションでの意見交換とその結果発表。ワイズメンは傍聴をさせて頂きました。

若者だからZOOM操作に慣れてるとはいえ、操作の見事さには圧倒されました。とにかく切り換えが早くミスがない。また基調講演を聞いて、それを自分のYMCAの活動に繋げて、即、反省点、取り入れを答えていく。彼ら自身の人間性がすべて子供達に反映されるので、まず自分を見つめることも強いられると厳しい採点です。お互いの経験が重

なり合って、成果がでるものと感じました。

今月9月例会には、ゲストとして北野町にお住まいの中野裕子さん(長谷川さんのご友人)も初めてご出席でした。

徒然なる儘に老いを楽しむ

山本英次

森繁久彌を主人公として、高橋幸治、松山英太郎、いしだあゆみ、島かおり、勝呂誉たちが孫として出演した戦後のホームドラマがありました。「七人の孫」という向田邦子さんの脚本で、久世光彦氏の演出の大家族ドラマでしたね!今ではおじいちゃん、おばあちゃん役をする役者さんが孫として出演していた訳ですから、今年80歳を迎える私もそれなりの年を取ったことになります。

小学生の時にコメットデビューした愛莉は、私の七人の孫の長女ですが、美容師として独立し、今年のコロナ禍で、アメリカ国籍の日本人と結婚しました。まだ式は挙げられないのですが都内のマンション暮らしを楽しんでいるようです。孫の内、上の三人は、それぞれ美容師、看護師として独り立ちして生活しております。残った娘の息子と長男の三人の娘は高校生と中学生になりました。

敬老の日を祝う行事は老人会や市の行事ではすべて中止となりましたが、我が家では80歳を記念して始めて開催をいたしました。

「年寄り扱いするな!」などと野暮な事は言わずに、素直に喜びましょう。高校生の息子から「渡したいものがあるので来てください」とのメールが入り、娘の家の中学生と高校生の女の子の孫二人を連れてゆくことになりました。長男からは、お祝いのケーキをもらい、娘からは素晴らしい夕食の準備をしてくれていて私の喜びは満開です。

「中秋の満月」(読売新聞9月22日朝刊)

『古くから月を眺める習慣がある旧暦8月15日の中秋にあたる21日、「中秋の名月」が日本各地で見られた。暦と満月は必ずしも一致しないが、今年の名月は8年ぶりに満月となった。』

楽しい夕餉のひと時を過ごして、ケーキを食べてたわいのないおしゃべりの中で、ふと空を眺めれば満天の月が明るく輝いているではありませんか。

早速に屋上のベランダに上がり、本当に何年振りかの「お月見の宴」を開きました。狭い屋上で満月を愛でながらのスナックをお届けいたします。



YMCA便り

中里 敦

今夏も宿泊を伴うキャンプは中止としたが、5つのデイキャンプを無事に実施することができました。早く宿泊もできることを願っています。

◆経済的な理由でYMCAのプログラムに参加できない子どもたちの参加費を補助する「フレンドシップファンド」から、今夏は計272,855円を支出し、9人に参加費を補助しました。今後も広く寄付を募り、ファンドを積極的に活用していく。

◆東京YMCAが長年支援を続けているバングラデシュYMCAが運営するNFPE（働く子どもたちの学校）は、コロナ禍の影響により2020年3月から休校が続いている。子どもたちの学習とその家族の生活支援のために、国際協力募金から支援をすることとし、募金活動を開始しました。現地では教師が各家庭を訪問し家庭学習をサポートしたり、生活困難な家庭には食料品やマスクなどの物資を届ける予定。また、一昨年から交流が始まったミャンマーのネピドーYMCAでは「YMCA農村診療所」の活動の延長として、コロナ患者を病院に搬送する救急車プログラムの他、失業者に食料品を配給する活動をはじめたことから、国際協力募金からの支援を検討しています。

<東京YMCA主な行事予定>

- ・「東京YMCA高等学院を支えるためのチャリティーコンサート」 10月15日
- ・「第35回インターナショナル・チャリティーラン」
個人参加：10月16日～22日
チーム参加：10月23日～31日
- ・「YMCA・YWCA合同祈祷週礼拝」 11月11日

ひっじぐも便り

国際ボランティアサークルひっじぐも

2年 大竹春華

こんにちは、国際ボランティアサークルひっじぐも2年の大竹春華です。今月のオンライン勉強会で地域でのつながりや居場所づくりをテーマに発表をしました。地域活動の中でもコミュニティビジネスの一環であるコミュニティカフェについて取り上げました。

コミュニティビジネスは、地域課題の解決をビジネスの手法で取り組み、地域の人材や施設、資金を活用することにより雇用を生み出したり、交流を作ったりすることで地域のコミュニティの活性化させるものとして注目されています。今回とりあげたコミュニティカフェは市民が自発的にカフェ的な場や空間・機能を活用してイベントやワークショップを行ったり、展示スペースを設けたり、地域の住民の手作り品を販売したり、地元の食材を利用した飲食を提供したりします。

実際に調べてみて地域の活動にビジネスを絡めていく考え方に驚きました。そういった活動は全てボランティアによって行われているイメージがありましたがビジネスを絡めて雇用を生み出したり事業に継続性を持たせたりする視点を学びました。その地域に住んでいるからこそできることがあり、ボランティアスタッフとして協力することや地産地消への取り組み、ワークショップやコミュニティに参加することで自分の地域の問題を知り、新たな発見もあります。子ども食堂とコミュニティカフェが一緒になっている場所もあり子どもから大人まで様々な世代の居場所づくりへと取り組みがなされています。

今月の聖句によせて (2021年10月)

“「人」という文字は支えあう二本の棒から成っています。「人間」という言葉は、「人」は、「人」と「人」の「間」にあって「人間」となる、ということを表しています。”私は、ボランティアについて話す時、このことをよく引き合いに出していました。

自分は誰からも必要とされていないし、愛されてもいない。自分には生きる価値がない。自分の存在は人に迷惑をかけるだけで、誰の役にも立っていない。このように思い、孤立感、孤独感にさいなまれて、短い人生に終止符をうっていく若者のなんと多いことでしょう。コミュニケーションのツールも飛躍的に発展し、人々は密集の中で生きるこの時代。むしろ、人と人のつながりはうすく、悩みや問題を抱えながらも、分かち合う相手を見つることができなくて、断たれる若い命。ほんのちょっとした出会い、支えがあれば失わなくてすむ「いのち」があります。

私たちは人に迷惑をかけないで生きることはできませんし、決して一人だけでは生きていけません。まったく欠点がなく完璧な人もいません。人に迷惑をかけたり、かけられたり、「いのち」のつながりのなかで支えあって生きています。

この「いのち」のつながりを蘇らせることを願って生み出されたのが「いのちの電話」です。匿名性が守られ、どんなに恥ずかしくても、名前も知られず、顔もみられなくてもすみます。そして、互いに心から愛し合い、よき隣人でありたいと願いつつ、ひたすら傾聴してくれるボランティアの存在がそこにあります。

クリスチャンの有志の祈りと努力によって、日本ではじめて、東京に「いのちの電話」のベルが鳴ったのは、1971年10月1日、午前0時でした。今からちょうど50年前。今日1日は、日本で「いのちの電話」が生まれて50周年の記念の日です。

並木信一

《報告》

◇ 9月第一例会

日時：2021年9月11日 18:00-20:00

会場：北野事務所 2階大会議室

出席：大久保・菅野・久保田・小口・中里・並木（信）・

並木真・長谷川・花輪・福田・茂木・望月・山本

ゲスト：中野裕子さん ビジター：出沼一弥さん（16名）

卓話：「コロナ禍にある西東京YMCAの“今”」

東京YMCA 西東京センター長 出沼一弥氏

◇ 9月二例会

2021年9月25日 18:00-20:00

会場：北野事務所 2階小会議室

出席：久保田・小口・中里・並木（信）・並木真・長谷川

花輪・福田・茂木・望月・山本（11名）

①あずさ部憩いの森大会の詳細打ち合わせ：長谷川部長・久保田

②7月の熱海・伊豆山地区土砂災害への寄付について：

小口会計

チャリティーランへの寄付金引渡し：山本会長⇒中里担当主事

④9月30日 緊急事態宣言が解除されてからの八王子ワイズの活動

（10月例会・11月例会・12月のクリスマス例会）の方向性

⑤その他：最近の八王子ワイズメンの活動実績など

10月の誕生日の皆さん
小口多津子さん
10月4日

高尾わくわくビレッジ便り

館長 菅野牧夫

東京都のコロナ感染者数も少し落ち着いてまいりました。9月30日(金)をもって緊急事態宣言も解除されました。10月1日(土)から24日(日)で東京都はリバウンド防止措置と称して少しづつ、通常の生活に戻していく方針のようです。

わくわくビレッジも東京都の方針に合わせてだんだんと通常営業に近づけてまいります。10月1日より、各施設の定員を元に戻しました。

ユーススクエア(正面のロビー)もコンサートができるように座席数を増やしました。レストランの座席数も定数に戻しアルコールの販売も再開しました。

しかしながらテーブルの亚克力板は今まで通り設置されています。消毒液の設置、マスクの利用、館内の換気についても今まで通り行っています。

9月の宿泊利用者数は緊急事態宣言の継続で、学校団体の利用がほとんどなく500名強となっていました。10月は900名強の予約が入っています。通常ですと3000名ほどの利用がありますのでまだまだですが、何となく明るい気分になります。

そして何よりうれしいことは予約をしている方たちに学校団体が何団体か入っていることです。今日は緊急事態宣言明け初日ですが小学校の団体が宿泊をしています。事務所にも子どもたちの声が響いてきました。久しぶりにわくわくビレッジがにぎわってきている感じです。コロナ感染者数がこのまま落ち着いて、子どもたちの声があふれるわくわくビレッジが続いてくれるといいのですが。祈るばかりです。

わくわくビレッジでは10月1日より新しいスタッフを迎え入れました。野地雪奈さんという20代の事務スタッフになります。事務所が一気に若返りました。今まで同様よろしくお願いします。